



アジアの
母と子を
ささえる



国際保健医療支援団体
(認定NPO法人)



ピープルズ・ホープ・ジャパン

<http://www.ph-japan.org>



©Toshihiro Kubo

お母さんと子どもの命を守り、 健康を育くむ、そのために。

カンボジア、ミャンマーでは、お母さんが出産時に亡くなるリスクは日本の30倍*以上。またミャンマーで赤ちゃんが1歳までに亡くなるリスクは日本の20倍にもなります*。これらの国は、過去の内戦や政治体制などさまざまな要因で、医療環境や医療人材が整っていません。

とくに農村部では自宅出産が多く、難産や多量出血など不測の事態に対応できず、お母さん、そして生まれてくる赤ちゃんも命を落とす可能性が高まります。

ピープルズ・ホープ・ジャパンが目指しているのは、誰もが健やかに暮らせる地域づくり。

そのために未来を担う母と子を中心とした保健サービスの充実に向けた活動を続けています。

*世界子供白書 2016

PHJの活動の特徴

- ・ 自立化を目指した医療・保険分野の教育の実施
- ・ 現地のニーズに沿った地域密着型の草の根活動
- ・ 地域全体をハード・ソフトの両面から継続的支援

主な活動の成果

- ・ 約10年間で11棟の保健センターを建築し、同時に保健・衛生教育や栄養改善活動を実施。(インドネシア)
- ・ 保健センターでの分娩助産率を2%から77%に向上し、住民の運営による搬送システムを確立。(カンボジア)
- ・ HIV/AIDS 予防を目的に大学生・高専生を対象にピア教育を18年間で約55,000人に実施。(タイ)
- ・ 乳がん自己触診検診の推進活動で、5年間で19,667名がトレーニングに参加しました(うち28名が手術)。(ベトナム)
- ・ 中古救急車の寄贈による搬送システムの強化や2棟の保健センターの建築支援を実施。(ミャンマー)
- ・ 東日本大震災で被災した気仙沼、石巻、多賀城の病院機能の復興を支援。(日本)

PHJ は東南アジアの人々が 健康に暮らせるように 保健医療分野の教育支援を行っています。

PHJ は東南アジアで国際保健医療支援活動を行う
認定 NPO 法人です。米国の国際 NGO 「Project HOPE」の
日本法人として設立し、2006 年「ピープルズ・ホープ・ジャパン」
として独立しました。

PHJ の理念

すべての人が健康で希望をもって暮らせるように

PHJ の使命

自立しようとするアジアの人々が健康に
暮らせるように、「保健・医療環境の向上」に
むけて教育を中心として自立支援を行います。

運営基本方針

1. 「人間の尊重」

人間を尊重するという基本に立ち、世界の人々が健康で
希望をもって暮らせるよう、その国の人々を信じ、
自立化できるよう支援をしていきます。

2. 「良質な活動」

支援地域の現場ニーズを把握した上で、支援テーマを
自立化への道筋を含め、支援国・地域と協力して選定し、
積極的に活動支援していきます。

3. 「中立性」

運営にあたっては政治、思想、信仰だけでなく学校、
企業に対しても中立性を維持します。

4. 「基金の効率活用」

皆様からのご寄付を 1 円でも多く現地支援に役立てることが
できるように基金の効率的運営を図り、経費を削減します。

支援に関わる誰もがうれしい HAPPY・HAPPY コンセプト



©Toshihiro Kubo

- 1958 年 米国 Project HOPE 設立
- 1997 年 民間の「任意団体」プロジェクト HOPE ジャパンとして活動スタート
医療機器・技術支援開始（インドネシア）
- 1998 年 タイ事務所開設
障がい児・慢性疾患児支援開始（タイ）
口腔衛生教育支援開始（インドネシア）
- 1999 年 インドネシア事務所開設
HIV/AIDS 予防教育支援開始（タイ）
小児先天性心臓病手術支援開始（タイ）
経済企画庁（現内閣府）より「特定非営利活動法人」として認証される
- 2001 年 国税庁より認定 NPO 法人（第 1 号）として認定される
- 2002 年 子宮頸がん・乳がん検診推進開始（タイ）
医療機器・技術支援開始（カンボジア）
- 2003 年 カンボジア事務所開設
母子保健改善活動開始（インドネシア、カンボジア）
- 2006 年 ピープルズ・ホープ・ジャパンとして独立・改称
- 2008 年 ベトナムで HIV エイズ予防教育（～2010）、
乳がん早期発見事業（2011～2015）を実施
- 2011 年 東日本大震災緊急・復興支援開始
- 2015 年 ミャンマー事務所開設
母子保健改善活動開始（ミャンマー）
- 2016 年 タイ事務所、インドネシア事務所閉鎖
熊本地震医療支援募金実施（日本）

母と子が医療を受けやすい環境へ。

母子に向けた保健教育

安全な出産や乳幼児の健康推進に向けて、地域住民への健康教育や衛生教育、栄養改善教育を農村地で行っています。

保健人材の教育

安全な出産をめざし、助産師のスキルアップ研修を行ったり、保健センターのスタッフの教育や保健ボランティアの育成などを行っています。

医療施設・機器の支援

住民にとって身近な医療施設がない、設備が整っていないことが多々あります。PHJでは施設の建築支援から設備の寄贈などハード面での支援も行っています。

各国の活動

カンボジア

▶現状

2014年からコンボンチャム州の農村地で活動開始。保健センターにおける分娩や産前産後健診の利用が少ない状況。十分な知識と臨床経験のある助産師が不足しています。

▶目指す成果

保健行政区と保健センターが協働し地域住民から信頼されるサービスを提供できる体制を作ること。



ミャンマー

▶現状

2015年よりネピドーに事務所を開設し、タコン郡で活動開始。農村部では自宅分娩が非常に多く、母子保健サービスの改善が望まれています。

▶目指す成果

地域の母子が基礎的な母子保健サービスへアクセスできる医療設備改善、助産師スキル向上、村人の保健知識改善。



支える、支えられるをつなぐために。

募金活動

支援を必要とする現地と、また社会貢献をしたいと考えている企業や個人の方、双方のニーズに応えるために「つなぐ」活動を行っています。

広報活動

PHJの活動を知っていただくために情報発信やイベントなどを開催しています。

講義・スタディツアー

活動で培ったノウハウや活動の内容の出張講義を行っています。また現地を訪問して活動を学ぶツアーも行っています。

東日本大震災支援

病院機能の復興支援や地域の包括支援

気仙沼、石巻、多賀城を中心に震災時にダメージを受けた医療施設へのドクターカーや医療機器の寄贈を行ってきました。今後は被災地の状況やニーズに合わせて地域包括支援に重点を置いて支援していきます。



PHJの活動への支援方法

▶ 賛助会員になる

PHJの理念に賛同いただける方なら

個人・企業・団体どなたでも参加いただけます。

- ・年2回の情報誌「PHJニュースレター」と年次報告書をお送りします
- ・右ページのハガキ、あるいはホームページからお申込みいただけます。

▶ 寄付をする(一般寄付)

寄付金額をご自身で決定し、いつでもご支援できます。

右ページのハガキ、あるいはホームページからお申込みいただけます。

▶ マンスリーサポーターになる

月500円から支援できる「こんにちは!お母さん募金」はPHJのホームページからお申し込みいただけます。

▶ 協賛する(企業団体様)

- ・スポンサープロジェクト
- ・寄付型自販機設置

会費・寄付振込先

- ・みずほ銀行 三鷹支店(普通)1357971
- ・三菱東京UFJ銀行 三鷹支店(普通)1524692
- ・ゆうちょ銀行(記号)10130(口座)76235271
口座名 ピープルズホープジャパン

●PHJへの寄付金は税制上の優遇措置が受けられます。
PHJは認定NPO法人です。そのためPHJに寄付をされた方は確定申告によって寄付金控除(税額控除)が受けられます。

詳細はホームページから

<http://www.ph-japan.org/>のトップページ▶

支援する▶寄付金控除のご案内をご覧ください。

ご入会・ご寄付お申込みハガキ

 FAX/0422-52-7035 でもお送りいただけます。

キリトリ 

フリガナ

お名前

(紹介者氏名 :)

ご所属(団体名)

住所 〒

メールアドレス

PHJのメールマガジンに登録する 登録しない

賛助会員

●個人賛助会員: 一口3,000円 ×
円/年

●法人賛助会員: 200,000円 ×
円/年

ご寄付

一般寄付 円

支払方法

銀行口座振替: 賛助会員のお支払に便利です

銀行振込: 振込先は左ページに記載しております

クレジットカード (VISA・MasterCard)

: インターネット決済のためPHJのホームページ

http://www.ph-japan.org/support_credit

からのお申込みが必要となります。

VOLUNTEERS
&
INTERNS

ボランティア・インターンも募集しております。

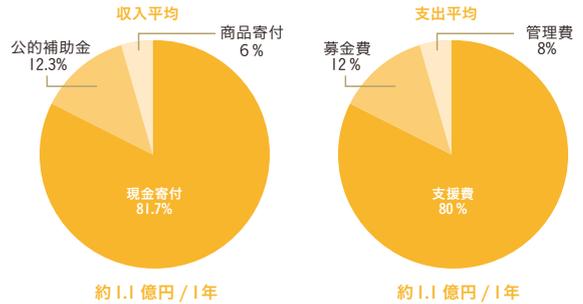
PHJの活動に共感し、応援して下さるかたの
参加をお待ちしております。

FINANCIAL
STRUCTURE

会費・ご寄付はこのように使われます。

PHJの活動は会費、個人、法人からの寄付、
公的補助金などでまかなわれています。

PHJの財政基盤 2001年以降の災害支援を除いた平均収支



キリトリ ✂

郵便はがき



1 8 0 - 8 7 9 0

差出有効期間

平成31年
1月4日まで

東京都武蔵野市中町 2-9-32

特定非営利活動法人

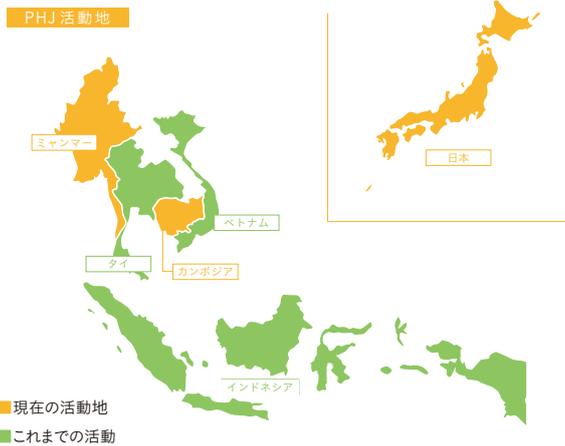
ピープルズ・ホープ・ジャパン 行き



BOARD OF
DIRECTORS

ピープルズ・ホープ・ジャパン役員 (敬称略 50音順) 2017年1月現在

- 理事長 小田晋吾
日本ビューレット・バックカード (株) 元社長
- 副理事長 田中滋
慶応義塾大学 名誉教授
- 理事 川上潤
GEヘルスケア・ジャパン (株) 元代表取締役社長兼 CEO
- 理事 甲谷勝人
日本ビューレット・バックカード (株) 元社長
- 理事 五月女光弘
外務省初代 NGO 大使、駐ザンビア・駐マラウイ共和国元大使
- 理事 清家篤 慶応義塾 塾長
- 理事 多田正世 日本製薬団体連合会 会長
(大日本住友製薬 (株) 代表取締役社長)
- 理事 中島康雄
聖マリアンナ医科大学 放射線医学講座 教授
- 理事 西澤寛俊
全日本病院協会会長 (西岡病院理事長)
- 理事 廣見公正
ピープルズ・ホープ・ジャパン代表
- 理事 松本謙一 海外医療機器技術協会会長
(サクラグローバルホールディング (株) 代表取締役会長)
- 理事 溝口文雄 横河電機 (株) 社友
- 理事 森口美由紀 武蔵野市民
- 監事 八木和則
公認会計士・監査審査委員会委員、横河電機 (株) 参与



- PHJは、東南アジアの人々の自立に向けて「保健・医療の教育」活動に取り組む国際保健医療支援団体です。
- PHJは、米国の国際NGO「Project HOPE」の日本法人として1997年に設立され、2006年に日本の国際協力NGOとして独立しました。
- PHJは、2001年に国税庁より認定NPO法人（第1号）を認定されました。
- PHJは認定NPO法人を取得しているため、寄付金は、所得税・法人税・相続税・一部自治体の個人住民税の優遇措置が適用されます。
- PHJは、1250人の個人賛助会員と、およそ160の法人賛助会員に支えられています。（2017年1月現在）

アジアの母と子をささえる
国際保健医療支援団体（認定NPO法人）

ピープルズ・ホープ・ジャパン

〒180-8750 東京都武蔵野市中町2-9-32

TEL:0422-52-5507

FAX:0422-52-7035

<http://www.ph-japan.org/>

